

## 会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和2年度第1回宝塚市スポーツ推進審議会
2 開 催 日 時	令和2年8月26日(水) 10時00分～12時00分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 特別会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■永田委員    ■金山委員    ■谷委員    ■奥村委員 ■田中委員    □関戸委員    ■高原委員    ■荻原委員 ■樋口委員    □清水委員    ■坂本委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	■ 可    □ 不可    □一部不可
7 議 題 及 び 概 要	◆報告事項 (1) 令和2年度スポーツ関係団体への補助金交付について (2) 第16回宝塚ハーフマラソン大会について (3) 宝塚市スポーツ振興計画の進捗状況について  ◆議題 (1) 次期宝塚市スポーツ振興計画策定について

### 報告事項

- (1) 令和2年度スポーツ関係団体への補助金交付について

事務局： 宝塚市体育協会に対して運営費補助金として106万円を交付した。

会長： ご意見ご質問はあるか。

委員： 交付金の内訳として、48協会に2万円ずつで変わらないか。

事務局： 48協会に対してそれぞれ2万円、宝塚市体育協会の運営費として10万円を交付している。

- (2) 第16回宝塚ハーフマラソン大会について

事務局： 新型コロナウイルス感染症の影響により、ランナーやボランティア、大会に関わる方々の安全・安心の確保が困難であると判断して今年ハーフマラソン大会を中止することを決定した。昨年度の第15回大会では、4,763名の方に参加いただき、約800名のボランティアの方に集まっていた。それだけ多くの方が集まって十分に感染対策を講じることはやはり難しいと考えた。今後の感染状況の動向によっては、市民向けに何か実施できる大会があるか検討していきたい。

委員： ハーフマラソン大会の400万円の予算については、保留中ということか。

事務局： まだ検討の段階である。

委員： 何か予定を立てて使えないか下半期に検討していくということですね。

事務局： スポーツをする人にとって、練習しても大会がないというのは励みになるものが

ないので、コロナ渦ではあるけれども 3 密に気を付けながらなにかできるものはないか検討の段階です。

会長 : 委員の皆さんからもこのことについて、のちほどご意見いただけたらと思う。

### (3) 宝塚市スポーツ振興計画の進捗状況について

#### 議題 (1) 次期宝塚市スポーツ振興計画策定について

事務局 : 令和 3 年度からを計画期間とする新しいスポーツ振興計画は、市内在住の 15 歳以上の人を対象とした宝塚市スポーツ意識調査のアンケート結果を基に策定していきたいと考えている。スポーツ意識調査に携わった谷委員からアンケート結果の概要について説明いただきたい。

委員 : 前回 2010 年調査では、20 歳以上を対象としていたが、これまでの審議会の中で子どものスポーツについても議論があったので、今回は 15 歳以上を対象にアンケートを行った。アンケート結果からは、過去 1 年間に実施したスポーツ種目の上位は、散歩、ウォーキング、ストレッチ、体操と 1 人でできる種目が多いということが明らかになった。また、今後実施したい種目でも同じ種目が上位にきており 1 人で実施できるものを希望していることがわかる。過去 1 年間のスポーツ実施頻度では、週に 1 回以上実施している人の割合は宝塚市では 66.3%であった。国のスポーツ基本計画では目標値を 65%以上と定めており、宝塚市ではすでに超えている。週 3 回以上の実施率でも国の計画では 30%を目標としているが、宝塚市は 32.8%であり国の目標値を超えている。次期計画では、基本的にはこれまでの計画を踏襲しながら、新たに加えるべきところを盛り込んで時代に即した内容にしていくというのが望ましいものとする。今後実施したい種目を一緒に実施したい相手は誰であるかという質問では、自分 1 人でしたいという人が多い。また、過去 1 年間に新しく始めた種目、再開した種目、継続している種目についても 1 人でできる種目が多い。宝塚市内のスポーツ施設の認知度・利用希望では、スポーツセンターは最も認知度が高く、体育館施設は認知度も高く利用した人も多いという結果である。ウォーキング、ジョギングで武庫川河川敷を使用したりスポーツクラブ 21 で学校体育施設を使用したり、また宝塚市は山や名所旧跡が多いので、そういったところでハイキングをしている人も多いと推測できる。次に市内で行われている事業・プログラムでは、ハーフマラソン大会の認知度は高く実際に参加したいという人は 13.3%いる。スポーツクラブ 21 を知っているという人は約 4 分の 1 であり、より認知度を高めて積極的に参加できるように仕掛けていくことが必要であると思う。運動・スポーツに関して興味のあるものは、健康体づくりやスポーツイベント、スポーツ教室の案内や気軽にできるスポーツ情報というところに需要がある。どのように情報を入手したいかというところでは、市の広報誌、インターネットというところにある。子どもの体力向上や運動時間の確保

のために必要なこととして、子どもが安心して屋外で遊んだり、運動したりできる場所を作ってほしいという需要がある。

委員：子どもが遊びやすい場所を用意しないと今の運動不足、体力の低下も改善しないのではないかと思う。また一緒に遊んだり運動したりする仲間作りも必要である。学校の授業以外で、子どもの運動・スポーツを推進する担い手として最も期待されているのは民間のスポーツクラブやスポーツ教室である。外で遊ぶ場所がなかなかないので、どこかに加入して運動してもらいたいというのが感じられる。今後子どものスポーツ活動を推進する上での方策として民間指導者の登用が期待されている。また、次期計画では障害者スポーツのことについても触れていきたい。障害者スポーツに関する活動については、参加・観戦ともにしたことがない人が約半数近くもいる。また、参加する機会も実際に行われているイベントをたずねてみる機会も少ない。事業として十分にできていないのもあるが、身近に感じられるような施策が必要ではないか。障害者が利用しやすいスポーツ施設を整備するとか障害の程度や年齢に関係なく、障害者と健常者がともに楽しめるスポーツを開発することが必要だというような回答が多い。障害者の健康づくりに役立つ運動を普及させて健康を維持することを伝えていくような施策を計画に盛り込めたらと思う。

会長：このアンケート結果に基づいて、各委員よりご意見いただきたい。

委員：スポーツを通じて培われた人間関係ってというのはずっと続いていくものになるので学校としても大切にしたいし、スポーツを続けていくことは心身ともに健康な人間形成に役立つものと思う。それから学生の骨折が多い。気持ちはとても前向きである一方、それを支えるだけの体づくりが十分できていない。小さいときからの基本的な体づくりやスポーツ以前の自然体験や経験のなかでの体づくりという視点も重要である。

委員：子どもがスポーツをしようと思っても自由にできる場所がない。本格的にしようと思ったらクラブに入るとかチームに入らないと難しい。休日や放課後に道具を使ったり何人かで満足のいく練習をしようと思ってもできる場所がないので、土・日の練習に限られてしまう。もう少し子どもが自由にスポーツをできる機会や場所があればよい。

委員：関わっているスポーツクラブ 21 では、学校体育以外での子どもたちが遊びを通してできる体力づくりに取り組んでいる。コロナの影響でハーフマラソン大会や小学生駅伝競走大会など子どもたちも参加して喜んでいるものを全部中止にしてしまっは元気がない市になってしまうので、できるだけ形を変えてでも何か発信していきたい。

委員：障害者スポーツで、コロナ渦において当事者がスポーツに参加していくとか講習していくためのガイドラインが出ているが、ボランティアのためのガイドライン

がまだない。やはりスポーツは今ボランティアがなければ成立しないので、そういった点も勘案していかないといけない。

会長 : ボランティアといえども、時間や交通費がかかっているのもまったくの無報酬というのは反対である。きちんとした報酬があると、それに対する責任を自覚しながら動いてもらうというのが大切である。

委員 : ボランティアの話でいうと、テニスで指導するには資格が必要になる。更新も必要で講義を受けて費用もかかる。そういった点はどうかにならないかと思う。

委員 : 例えばスポーツクラブ 21 でスポーツをしようと思うと、そこに入るということが必要であり、入るという作業そのもののハードルが非常に高いということが話を進めるうえで大事な認識かと思う。

会長 : ほかにご意見はないか。

事務局: スポーツ振興計画の今後の策定スケジュールとしては、今後 2~3 回の小委員会、12 月に計画案を形にして 1 月に審議会を経てパブリックコメントを実施したい。

会長 : すべての議題が終了したので閉会する。